

認メラルニ付右何等御参考迄卑見申添フ

英、佛及巴里聯盟ニ暗送セリ

~~~~~

## 2 仏國の南シナ海礁島領有問題

605

昭和8年7月18日

在仏國長岡大使より  
内田外務大臣宛(電報)

仏國にシテ南シナ海礁島(新南群島)領有し閲

する仏國雑誌記事にヘント

パリ 7月18日後発

本省 7月19日前着

第三二一號

貴電第一四七號ニ關シ

本件電通ノ電報ハ雑誌「Illustration」七月十五日號(十

三日配達サル雑誌郵送ス)ニ要旨左ノ如キ記事掲載セラレ

タルヲ以テ當地U、P代表者カ打電セルモノノ由ニシテ當

國政府ヨリ正式ノ公表アリタルモノニハ非ス

本件礁島中ニハ水(上)飛行機潛水艦等ノ避難所トシテ適

當ノモノモアル處從來日英米佛蘭ノ何レ(モ)右礁島ニ對

シ主權ヲ確立シタルコト無カリシカ一外國カ同礁島ニヨリ  
支那海ノ監視權ヲ行使スルカ如キハ有事ノ際佛國海上交通  
ノ爲危險ナルヲ以テ佛國政府ハ之力領有ヲ決シ一九三〇年

件 件

雜 雜

砲艦 Maliceuse ハシト Kempete 島ヲ領有セシメ更ニ一九

一一一一年四月廿通報艦 Astrolabe 及 Alert ハ没リテ Amboyne,

Itu Aba, Loaata, Thi Tu, Les Deux-Iles ノ諸島ニ國旗

ヲ掲揚セシメタニ Itu Aba リハ一九一五年以來日本人人力

燧礮ヲ採取シタル跡及支那人カ居住シタル跡ヲ認メ Thi

Tu 及 Les Deux-Iles リハ當時海南島ノ支那人カ居住シ居

リタリ

606

昭和8年7月18日

在仏國長岡大使より  
内田外務大臣宛(電報)

仏國の新南群島領有關係雑誌記事に關し外務

省アジア局長に問合せにして

パリ 7月18日後発

本省 7月19日前着

第三二二號

往電第三二一號ニ關シ

當地U、P代表者ニ問合セタル處十三日「イリュストラシオン」ノ記事ニ付當國外務省ニ問合セタルニ其内容ノ「コ

ンファイルマシオン」ヲ得タルニ付打電シタルモノナリト述

ヘ居リタリ

尙十八日澤田參事官亞細亞局長往訪ノ際右「コンフィルマシオン」ヲ與ヘタルハ事實ナリヤト尋ネタルニ同局長ハ該記事中本件礁島領有ノ目的力軍事上ニアル如ク書キアル點ハ正確ナラス同礁島ハ軍事上ノ根據地等ニハ使用シ得サルモノナルカ佛國トシテハ從來各國ノ艦船殊ニ印（度）支那ノ漁船カ右小島ノ近邊ニテ屢遭難スルニ鑑ミ一九三〇年以來極東艦隊ヲシテ航路安全ノ爲標識建設ヲ爲サンメ居リタルカ大体作業終了セシ故各國政府ニ對シ右ノ旨通告セント爲シ居リタル矢先斯ル記事ノ發表ヲ見テ當惑シタル次第ナリ但シ右通告ハ近ク發送ヲ見ルコトトナルヘシト述ヘ居リタル趣ナリ

607 昭和8年7月21日 小野（義夫）ラサ島燐礦株式会社代表 取締役より  
内田外務大臣宛

仏国が領有宣言した新南群島に關し陳情

（接受日不明）

昭和八年七月二十一日

大阪市西淀川區高見町壹丁目六拾四番地

リ公文ニヨル出省命令有之即時詳細情況具申致置候就テハ

萬般ノ事情御諒解濟ト拜察仕リ候弊社ハ事業經營上今日迄ノ投資額金壹百餘萬圓ニ及ヒ現在建物十九棟（此建坪壹千餘坪）及運搬用軌道棧橋竝ニ採礦用具類ヲ存置シ尙埋藏及倉庫ニ貯藏セル「燐酸質グアノ」ノ數量ハ數十萬噸ノ巨額ニ達スルモノニ有之候今般新聞紙上ニ傳フルカ如キ事實アリトセハ是レカ爲メ弊社ノ蒙ル損害ハ實ニ莫大ニ及フヘキハ勿論帝國ノ領土ヲ失フノ結果ヲ招來可致愚考罷在候間御多用中誠ニ恐縮ノ至ニ御座候得共事情御洞察ノ上事實御取調機宜ノ御處置被成下度懇願仕リ候 敬具

追テ同島嶼ニ關スル探險及殖民的經營ニ係ル確實ナル文  
章ハ當社ニ保存致居リ候ニ付若シ御必要ノ場合ハ御下命ニ基キ即時提出可致候ニ付申添候

608 昭和8年7月25日 在仏國長岡大使より

内田外務大臣宛（電報）

新南群島領有に關する仏国外務省公文について

パリ 7月25日後発

本省 7月26日前着

ラサ島燐礦株式會社 代表取締役 小野 義夫

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

南支那海面ニ散在スル島嶼ニ關スル儀ニ付陳情

謹啓炎暑之候愈々候隆昌之段奉慶賀候陳者本月二十一日大坂朝日新聞第一八五七五號掲載記事ニヨルトキハ今般佛蘭西國政府ニ於テハ軍艦ヲ派シフイリツピン西貢間ノ南支那海ニ散在スル九島嶼即チイツアバー島、チーズ島、アンボサイ島、ロアイタ島等ニ國旗ヲ掲揚セリ云々ノ旨記載有之候處該島嶼ハ弊社カ大正七年以降同十年ニ至ル間ニ於テ數次ノ探險船ヲ派シ調査シタルノ結果同島ニハ多大ノ燐礦石ト「燐酸質グアノ」ノ埋藏存在セルコトヲ發見シ同十年以降先占ニヨリ所有權ヲ獲得シ他日帝國ノ領土ニ編入セラルヘキヲ期待シ植民的占領ノ目的ヲ以テ前記鑛物ノ採取事業ヲ經營ノ爲メ人夫ヲ派遣シ今日ニ及ヒタルモノニ有之候（昭和四年以來一時事業休止目下當社關係ノ居住者ナン）

同島嶼ノ狀況ニ就ハ大正十年七月貴省亞細亞局村井事務官殿ニ陳情大正十四年二月十七日貴官宛文章ヲ以テ上申越エテ大正十五年十二月三日付貴省山形歐米局第二課長殿ヨ

第三三七號

往電第三二二號ニ關シ

當國外務省ヨリ廿四日附「ノート」ヲ以テ一九三〇年四月十三日Spratly島（Tempto島）又本年四月七日ヨリ十二日迄ノ間ニ往電第三二一號ノ他ノ五島及附屬島嶼（附屬書ニテ夫々位置ヲ表示シ居レリ）ヲ夫々同電ノ軍艦ニ依リ占領シタリ依テ自今右領土ハ佛國主權ニ歸屬スル旨通告シ越セリ「ノート」寫郵送ス右「ノート」ニ對シテハ何分ノ御回電アル迄受書發送ヲ差控ヘ居ルカ當方ヨリ其ノ領有ニ反對スルモ佛國ニ於テ其ノ決定ヲ變更スヘシトハ思ハレス且佛國ノ領有ハ米國ニ歸屬スルニ比シ遙ニ好都合ト存スルニ付若シ右諸島中本邦トノ經濟關係上何分留保スヘキモノアラハ此ノ際之ニ對スル保障ヲ取付ケ且同島ノ軍事施設ニ付華府條約適用ヲ見ルヘキモノナルコトヲ明カニシタル上承認セラルコト然ルヘキヤニ存ス

609 昭和8年8月4日 在仏國長岡大使より

内田外務大臣宛（電報）

仏国による新南群島領有に關し外務次官との

パリ 8月4日後発  
本省 8月5日前着

(<sup>(2)</sup>) 四日本使「ノシマー」ニ會見シタル際先方ヨリ進テ往電第三三七號南支那海島嶼ノ占領宣言ニ言及シ實ハ突然「イリコストラシヨン」ニ本件ニ關スル記事掲載セラレタル爲當國內ニ於テ各種ノ風説ヲ生シ外國ニ於テモ種々ノ反響ヲ惹起シタルニ依リ事態ノ紛糾ヲ來ササル以前ニ鎮靜ノ要アルヲ認メ急遽先般ノ如キ通告ヲ發シタル次第ナルカ當方法律顧問ノ見解ニ依レハ本件ハ無主物ノ先占ナルヲ以テ他國ノ同意ヲ必要トセストノコトナリシ故ニ一方の通告ニ止ムルト共ニ官報ヲ以テ本件島嶼占領ノ旨ヲ告示シタル譯ナリ元來問題ノ島嶼ハ外國船ニ取りテモ多少航海ノ障碍トナルモ特ニ佛國船カ佛領印度支那ヨリ濠州方面ニアル佛國領土ニ赴ク際ニハ必ス通過スヘキ場所ニ在ルヲ以テ右島嶼ニ燈火ヲ點スル要アルニ付一九三〇年右作業ヲ開始シタルカ當時英國政府ヨリ右作業ノ性質ニ關シ問合ノ次第アリタルニ依リ右ノ如回答シタル處

~~~~~  
四日本使「ノシマー」ニ會見シタル際先方ヨリ進テ往電第三三七號南支那海島嶼ノ占領宣言ニ言及シ實ハ突然「イリコストラシヨン」ニ本件ニ關スル記事掲載セラレタル爲當國內ニ於テ各種ノ風説ヲ生シ外國ニ於テモ種々ノ反響ヲ惹起シタルニ依リ事態ノ紛糾ヲ來ササル以前ニ鎮靜ノ要アルヲ認メ急遽先般ノ如キ通告ヲ發シタル次第ナルカ當方法律顧問ノ見解ニ依レハ本件ハ無主物ノ先占ナルヲ以テ他國ノ同意ヲ必要トセストノコトナリシ故ニ一方の通告ニ止ムルト共ニ官報ヲ以テ本件島嶼占領ノ旨ヲ告示シタル譯ナリ元來問題ノ島嶼ハ外國船ニ取りテモ多少航海ノ障碍トナルモ特ニ佛國船カ佛領印度支那ヨリ濠州方面ニアル佛國領土ニ赴ク際ニハ必ス通過スヘキ場所ニ在ルヲ以テ右島嶼ニ燈火ヲ點スル要アルニ付一九三〇年右作業ヲ開始シタルカ當時英國政府ヨリ右作業ノ性質ニ關シ問合ノ次第アリタルニ依リ右ノ如回答シタル處

其ノ後同國政府ヨリハ何等申出ニ接セス又在河内日本總領事ヨリモ問合ノ次第モアリ同趣旨ノ回答ヲ爲シ置キタル處其ノ後何等申出無カリンニ付爾來其ノ作業ヲ續行今般略之ヲ完了シタル次第ナルカ佛國政府トシテハ同島嶼ニ何等軍事的施設ヲ爲スノ意思無ク且日本側ニ於テ何等經濟的利益ヲ有シ居ラルルトノコトナラハ之ヲ尊重スヘキコト勿論ナリト述べタリ本使ハ本件「ノート」ハ直ニ之ヲ本國政府ニ通達シ置ケルモ爾來何等ノ返事ニ接セサルニ付右ニ對シ意見ヲ述フル地位ニ非スト應酬シ置ケリ

610 昭和8年8月7日 在仏國長岡大使より 内田外務大臣宛(電報)
仏國の新南群島領有に關する通知〔ハレ〕

別電一 八月七日発在仏國長岡大使より内田外務大臣宛第三六一號
右通告
11 八月七日発在仏國長岡大使より内田外務大臣宛第三六二號
右通告付屬書

貴電第一六六號〔關〕
外務省通告別電第三六一號附屬書別電第三六一號ハ通
(別電I)

第三六〇號
パリ 8月7日後発
本省 8月8日前着
パリ 8月7日後発
本省 8月8日前着

(別電II)
No.362.
Ilots relevant de souveraineté française.
(1) L'île Spratly située par 8° 39 latitude nord et 111 55 longitude est Greenwich ainsi que les îlots qui en dépendent.

(Prise de possession a eu lieu 13 avril 1930).
(2) Ilot Caye d'Amboine situé par 7° 52 latitude nord et 112 55 longitude est Greenwich ainsi que les îlots qui en dépendent.

No.361.
Ministère Affaires Etrangères a honneur de faire savoir l'Ambassade du Japon que Gouvernement français a fait procéder, à la date du 13 avril 1930, par canonnière "La Malicieuse", à l'occupation de l'île Spratly et, du 7 au 12 avril dernier, par les avisos "Astrolabe" et "Alerte" à celle d'un certain nombre d'îlots dont position est définitive dans note ci-annexée.

En conséquence, territoires dont il s'agit relèvent désormais de la souveraineté française.
Nagaoka
雜十

îlots qui en dépendent.

(Prise de possession a eu lieu 10 avril 1933) .

(5) Ilot Loaita situé par 10 42 latitude nord et 114 25 longitude est Greenwich ainsi que les îlots qui en dépendent.

(Prise de possession a eu lieu 11 avril 1933) .

(6) Ile Thi Tu situé par 11 7 latitude nord et 114 16 longitude est Greenwich ainsi que les îlots qui en dépendent.

(Prise de possession a eu lieu 12 avril 1933) .

Nagaoka

~~~~~

在ハノイ手塚(浩介)総領事館事務代理より  
内田外務大臣宛(電報)

新南群島に関する昭和二年ハノイ総領事問合

せ事項について

ハノイ 8月9日後発  
本省 8月9日後着

第一九號

611 昭和二年8月9日

果トシテ廣東總督ハ同年視察團ヲ同島ニ派遣シ支那國旗

ヲ掲揚シ二十一發ノ禮砲ヲ放チタリ

(三)一九二〇年三井物産カ同群島ハ佛領ナリヤトノ問合セニ  
對シ總督府海事課長ハ海軍ノ公文書ニハ同群島ノ所屬ヲ  
決定シ得ヘキ材料ナク佛領ニアラサル事ハ個人トシテ證明シ得ト回答セントセリ

トアルヲ以テ右佛國カ先占ニ依リ主權ヲ主張スルモ之ヲ以テ反駁シ得ヘシ

尙同群島カ安南領ナリト總督ノ公文ニアルモ根據不明ナリ  
前二文書ハ郵送ス

~~~~~

612 昭和二年8月16日 内田外務大臣より
在仏國長岡大使宛(電報)

仏國の新南群島領有宣言に対する我が方見解

別電 八月十六日発内田外務大臣より在仏國長岡大使宛第一七七号

右仏國側への申入れ要旨

本省 8月16日発

貴電第一九號ニ關シ

「バラセル」群島ニ付河内總領事ノ問合セ云々トアルハ昭和二年十二月八日附機密第一四九號ヲ以テ報告ノ件ヲ指スモノノ如シ即チ雑誌「エベイユ、ド、ランデシン」カ昨年五月、六月號ニテ素破抜キタル同群島ニ關スル「バスキエ」現印度支那總督カ植民大臣ニ宛テタル機密文書中ニ「一九二七年黑澤總領事ハ外務省ノ訓令ニ基キ來訪シ此ノ群島ノ領土的定立ハ佛國ノ代表ト爭議ノ目的物タル事ヲ得サルモノナリト宣言シタルニ付日本政府ハ本問題ニ付錯誤ニ陥ラサルベシ」ト斷ンタル一節アルモ右ヲ眞ナリトスルモ之ヲ以テ帝國カ佛國ノ主權ヲ認ムルト速断シ得サルベシ次ニ總督府第一課長「コブラン」氏(一九三一年)ノ機密覺書ニ依レハ

(一)帝國ト同群島トノ交渉ハ一八九六年姫路丸ノ同島ニ於ケル遭難ニ始マリ同船ノ載荷カ支那人ニ掠奪セラレタルニ依リ英國ノ保險會社カ同國官憲ニ申出テ支那政府ニ抗議シタル際支那側ハ同群島ハ安南ニ屬セサル如ク支那ニモ屬セスト答ヘタリ

(二)一九〇七年ニハ日本人力同島ヲ發見シタル權利提唱ノ結

(欄外記入一)第一七六號

(欄外記入二)貴電第三三七號及第三五七號ニ關シ

「一本件礁島ニ關シテハ我方に於テ大正七年以來「ラサ」島
燐礦株式會社カ之ヲ探査シ其後「イツ、アバ」(長島)
及「ノース、デンジャード、サウスウェスト、ケー」(南
双子島)ノ二島開發ニ從事シタル次第ハ昭和二年歐二機
密合第八九〇號並ニ同信附屬ノ「ラサ」會社社長具申書
ニ依リ御了承ノ通ニテ同社ハ大正十一年ヨリ昭和四年春
迄ニ巨額(會社側ノ申出ハ百萬圓以上ニ達スト云ヘリ)
ヲ投シ社員五名乃至七名醫師一名鐵夫六十名乃至百三十
名ヲ常置シ汽船十一回ノ往復ニ依リ「グアノ」二萬六千
噸ヲ内地ニ移入セル趣ナルカ前記二島以外ノ島嶼開發ニ
着手スルニ至ラサル内昭和四年不況ノ爲事業ヲ中止シ
島ニ於ケル施設(棧橋、軌道、神社、倉庫、職員宿舎、
礦夫宿舎、火薬庫、事務所、分析室等)ハ一切其ノ儘ト
シ且「イツ、アバ」島海岸ニ採掘セル燐礦約八千噸ヲ堆
積シ上記社員等ノ人員ノミ全部引揚ケタルママ今日ニ及
ベリ

ルモノアルモ經濟開發ニ從事シタルハ同社ノミナリ

二、「ラサ」會社ハ大正七年來二回ニ亘り調査隊ヲ派遣セル

際ハ何レモ海軍側ニ對シ調査隊監督トシテ適任者ノ推薦ヲ求メ其ノ結果豫備役海軍中佐ヲ監督ニ囑託スルニ至レ

ルモノニシテ豫備役軍人力帝國領土ヲ離レ行動スル場合ニハ海軍大臣ノ承認ヲ得ルヲ要スル關係等ヨリシテ本件

調査隊派遣ハ當初ヨリ帝國政府ニ於テ公然之ヲ了承シ居タル次第ナリ

加之海軍側ハ昭和四年中測量班ヲ特派シ更ニ軍艦膠州ヲ派遣シテ本件礁島及其ノ附近ヲ測量シ「ラサ」會社ノ經營ニ對シ便宜ヲ供シタル事實アリ

三、斯クノ如ク帝國政府ニ於テハ當初ヨリ「ラサ」會社ノ事業經營ノ事實ヲ承知シ之ニ對シ便利ヲ計リ居リタルモ本件礁島ノ地理的位置ニ顧ミ當時之力領有ヲ主張スルニ於テハ國際的紛糾ヲ惹起スルノ虞アリト認メ何等公式ニ先占ヲ聲明シ又ハ政府ニ於テ實質的占有ヲ行フノ措置ニ出テサリシ次第ナルモ適當ナル時機到来セハ之力領有ヲ宣

言スルノ意思ナカリシ次第ニ非ス而シテ同礁島ハ右燐礦事業以外ニモ水產業等相當經濟的價值アルト共ニ之力軍島嶼ハ悉ク佛國ノ領有宣言中ニ含マレアル次第ナルニ付右御含ミ置キアリタク又佛國側ニ於テハ一九三一年一月二十八日伊國皇帝カ「クリツバートン」島問題ニ付下シタル仲裁宣告ヲ援用シ政府ノ宣言ノミニテ實效的占有行

爲無クトモ領有確定スルモノナル旨ヲ以テ反駁シ來ル場合モ有ルヘキ處右仲裁宣告ハ國際法上容認シ得ヘキヤ否ヤ疑問アルノミナラス本件礁島ノ場合ハ我方ニ於テ繼續的ニ占有及使用シ來レルモノナルヲ以テ之ヲ「ク」島ノ場合ト同一ニ取扱ヒ得サルモノト思考ス

五、就テハ貴官ハ以上ノ諸點御含ミノ上（特ニ本件礁島ノ軍事的價值ニ就テハ極祕トセラレタシ）別電ノ趣旨ニ依リ

佛國今回ノ措置ヲ遺憾トスル旨ヲ佛國政府當局ニ申入レラレ帝國ノ立場ヲ充分説明セラルト共ニ佛國側ノ深甚ナル考慮ヲ求ムル様懇談セラレ結果同電アリタシ尙佛國側ヘ申入ノ上ハ其ノ旨電報アリタシ

（欄外記入一）

八月十六日發電

（欄外記入二）

八年八月十五日閲議ノ席上内田大臣ヨリ讀上ケラレタルモノナリ

（但シ各大臣ノ署名ハトラズ）

本省 8月16日發

第一七七號

件
十 雜
一、今回佛國政府カ領有ヲ通告越シタル南支那海ニ於ケル諸礁島ハ從來諸國ニ於テ之ヲ踏査測量シタルコトアリテノ所在ハ諸國海圖ニ明白ニ記載セラレ而モ無主ノ地トシテ一般ニ認メラレ積極的ニ之カ開發ニ從事シタルモノナ

カリシ處我方ニ於テハ本邦人ニシテ數次本件礁島ヲ踏査シタルモノアリ特ニ大正七年以來「ラサ」島燐礦株式會社ハ同礁島ノ「グアノ」及ビ燐礦採取其他ノ資源開發ノ目的ヲ以テ二回ニ亘リ十一島嶼ノ詳細ナル現地調査ヲ行ヒタル上大正十年ヨリ「イツアバ」島ニ於テ同十二年ヨリ「ノースデンジア」、サウスウエスト、ケー」ニ於テ巨額ノ資本ヲ投下シ夫々棧橋、軌道、倉庫、事務所、宿舎ノ如キ永久的施設ヲ設ケ職員五名乃至七名外ニ醫師一名鑛夫六〇名乃至一三〇名ヲ常置シテ組織的ニ之等諸島ノ開發ニ從事シ大正十一年ヨリ昭和四年迄ノ間ニ十一回汽船ヲ往復セシメ「グアノ」一萬六千噸ヲ積出シタリ偶々昭和四年春經濟界不況ノ爲同會社ハ一時事業ヲ中止スルノ余儀ナキニ至リ社員及從業員ヲ引揚ケタルモ永久的諸施設及多量ノ採取鑛石ハ一切其儘之ヲ殘置シ景氣回復次第再ヒ經營ヲ開始繼續セムトスルノ狀態ニ在リ而シテ帝國政府ニ於テハ「ラサ」燐礦會社ノ前記經營ハ當初ヨリ之ヲ承認シ且各般ノ援助ヲ供與シ來レル次第ナリ

額ノ資本ト多大ノ努力ヲ當時之ニ注キ各般ノ永久的施設ヲ設ケテ公然組織的ニ開發ニ從事セルノ事實ハ以テ本邦人力本件ノ島嶼現實且廣汎ナル繼續的占有及使用ヲ爲セルコトヲ實證スルモノナリ而シテ過去四年間本邦人力本件島嶼ニ於テ經營ニ從事セサリシコトハ事實ナリト雖モ右ハ單ナル事業ノ一時中止ニ過キスシテ同島嶼ノ占有及使用ヲ拋棄シタルモノニ非サルナリ

三、上記ノ如ク本邦人力帝國政府ノ承認及援助ノ下ニ本件島嶼ヲ繼續的ニ占有及使用セル事實ニ依リ帝國ノ同島嶼ニ對シ有スル權原（「タイトルズ」）及利益（「インテスツ」）ハ他國ニ於テ之ヲ尊重スヘキ義務アルモノニシテ尙又前記本邦人力本件島嶼ヲ繼續的ニ占有及使用セル事實ハ佛國力本件島嶼ニ對シ單ニ航路標識ヲ建設セル等ノ事實ト到底對比スルヲ得ス

四、加之佛國政府今回ノ先占ハ國際法上實效的占有ノ完了ヲ伴ハサルモノナルコトヲ併セテ指摘スルモノナリ

佛國政府力上記ノ關係ヲ考慮スル所ナク且前以テ帝國政府ノ意嚮ヲ確ムルコトナク俄ニ本件島嶼ノ領有ヲ通告スルノ舉ニ出テラレタルコトハ乍遺憾妥當ナリトスルヲ得ス而シテ

テ之力爲著敷我方輿論ヲ^(刺)刺激シ遂ニハ日佛親善關係ニ對シテモ面白カラサル影響ヲ惹起スヘキヲ虞ルルニ依リ帝國政府ハ佛國政府力本件ニ付同國政府ノ深甚且友好的ナル考慮ヲ加ヘラレムコトヲ要請スルモノナリ

613 昭和8年8月17日 在広東吉田(丹一郎)總領事代理より 内田外務大臣宛(電報)

李濟深による新南群島の中國領有支持方要請

への対応について

広 東 8月17日後着 本 省 8月17日後着

第三九五號

佛國ノ南支那海九島嶼先占問題ニ關シ

十六日午後中原海軍武官本官ヲ來訪シ和知陸軍武官ヨリ李濟深力在香港同武官謀者ヲ通シ此ノ際日本力該島嶼カ支那ノ領土ナリトノ支那側ノ主張ヲ支持スルニ於テハ啻ニ日本トシテ對華侵略ノ汚名ヲ解消シ得ルノミナラス西南ノ對日感情ヲ好轉スル上ニ効果アルヘク日本側ニ於テ考慮ノ餘地ナキヤト申出來レル處時局柄耳寄ノ申出トモ存セラルヲ

以テ何分ノ措置考究中ナル旨談話アリタルニ付中原武官ハ本件ハ中央ニ於テ目下折角研究中ナルノミナラス事國際法上ノ問題ニテモアリ先ツ領事ノ意見ヲ徵スル必要アリト一

應輕舉ヲ戒メ置キタル趣ヲ以テ本官ノ意見ヲ求メタルヲ以テ本官トシテハ未タ本件詳報ニ接シ居ラサルモ手許ニアル情報並ニ支那側ト接觸セル印象等ヨリ見テ支那側主張ハ該

島嶼ノ一部ニ支那人漁夫カ一定漁撈期間出漁根據地トシテ暫定的ニ居住セル事實並ニ比較的支那領土ニ接近シ居ル事實以外何等法的根據ナク

日佛ニ比シ最モ根據薄弱ナルヤニ存セラルノミナラス假得サルハ勿論現在中國側支持ニ依リ西南ハ愚力全支ノ好感

614 昭和8年8月19日 在仏國澤田臨時代理大使より

内田外務大臣宛(電報)

仏國の新南群島領有に関する仏国外務省政務

通商局長との会談について

パ リ 8月19日後発

本 省 8月21日前着

貴電第一七六號ニ關シ

八月十九日外務省政務通商局長「バルジユトン」氏往訪（「レジエ」次官ニ面會ヲ求メタルモ休暇ヲ取ル故ヲ以テ「バ」氏ト會見方希望シ來レリ）貴電第一七七號ノ御趣旨ヲ佛譯シタルモノヲ骨子トシ關係電信ニ依リ説明ヲ加ヘ

乍ラ本件ニ關スル我方ノ主張ヲ申入レタル處同局長ハ即座策動ハ絶對ニ差控フヘキモノト信スル旨申述ヘタル處中原

ノ思付トシテ回答シ得ヘキ點左ノ通ナリトテ

(一) 佛國側ノ實效的占有ノ問題ニ付海軍側ニ於テ着々其手段ヲ執リ國際法上有效ナル措置ヲ講シツツアルコト

(二) 日本人若ハ日本會社力該小島地方ニ於テ有スル權利々益ハ佛國政府ニ於テ之ヲ尊重スヘキハ勿論ナルヲ以テ日本人側ニ於テ安心シテ事業遂行セラレ差支ナキコト

(三) 該小島ノ占有ハ航海ノ安全ヲ計ル爲危險標識設置ヲ目的トスルモノニシテ其他何等ノ「アリエール、パンセ」ナキヲ以テ此等ノ點充分諒解アリタキ旨ヲ述ヘタリ

本官ハ事業遂行ノ爲ノ保障及占領ノ目的何ニアルヤ等ハ我方ニ執リテハ寧ロ第二義ノコトニシテ問題ハ主義ノ點ニアルコトヲ充分諒解セラレタク現ニ佛國海軍力該島嶼方面踏査ノ際日本人力有力ナル手段ヲ以テ (avec moyens puissants) 同方面ノ開發ニ從事シタル形跡ヲ認メタルハ「イリュウストラシオン」ノ記事ニモ現ハレ居ル所ナル外昨日「レジエー」次官カ石井子爵會談ヲ終リ辭退セラレントスルヤ立話ニテ「レジエー」氏ハ日本代理大使ヨリ會見ヲ求メ來リ居リ多分南支那海小島ノ問題ト思ハルトテ大体往電第

三五七號長岡大使ニ對スルト同様ノ談話ヲナシタル由) 在河内日本總領事ノ内話ニ依リ當時日本人力該島嶼方面ニ於テ開發事業ニ從事シ居リタル事實ハ印度支那政府ニ通セラレ同政廳ノ報告ニ依リ佛國政府ニモ明カトナリ居リタル所ト認メラレ從テ之ヲ無主ノ土地トシテ直ニ先占シ得ヘキ性質ノモノニアラスシテ

帝國政府ハ右日本會社力繼續的ニ事業ニ從事セル事實ニ依リ一ノ「タイトル」ヲ發生シ帝國政府ニ於テハ此ノ「タイトル」ニ基キ領有ノ意思ヲ發表シ得ル立場ニ在リタルモノナリ從テ其ノ意思ノ拋棄カ明瞭ニセラレサル限り他國ハ之ヲ尊重スル義務アリト解シ居ルモノナリト述ヘタルニ同局長ハ日本人力事業ヲ爲シ居タル事ハ承知シ居タルモ日本政府トシテハ同小島ノ歸屬ニ疑問ヲ有シ印度支那政府ノ意向ヲ問合セラレタル位ニテ其ノ後其ノ儘トナリ居リ從テ佛國トシハ今同無主ノ土地トシテ占領セルモノナリト答へ之ニ對シ本官ハ日本政府カ公式ニ占有ヲ聲明セサリンハ同小島ノ地理的位置ニ鑑ミ無用ノ國際的紛糾ヲ惹起スルヲ慮リタルカ爲ニシテ適當ノ時機到来セハ占有ヲ宣言スル意思ナカリシ次ニアラス即チ未タ占領ノ宣言ナル單純ナル手續

ないとの仏国外務省極東部長の談話について

パリ 9月3日前發

本省 9月3日後着

第四一五號

往電第四一四號會談ノ際極東部長ヨリ南支那海礁島ノ問題ニ言及シ先般日本政府ノ申入ニ對シテハ回答方折角考慮中ナル處經濟的ニモ軍事的ニモ何等價值無キ同礁島ニ付兩國政府間ニ「ディフィキユルテ」ヲ釀スカ如キハ極力避ケ度處ナルヲ述ヘタルヲ以テ本官ハ日本政府ノ主張モ同島ノ價值ヲ打算シテノ問題ニアラス寧ロ「プレステイージ」ノ問題ニシテ日本側ニ於テ多年開發使用シタル事實ニ基ク「ティートル」ヲ度外視シテ佛國側ヨリ突如領有ノ通知アリタド」ヲ傷付クル時ハ利害ヲ度外視シテ如何ナル結果ヲ見ルヤ計リ知ルヘカラサルコトハ特ニ考慮ニ入レラレ度旨ヲ述ヘタルニ同部長ハ佛國トシテハ航路標識設置以外ニハ他ノ主權ヲ行使スル意思無ク此ノ趣旨ニテ日本政府ニ對シ如何ナル保障ヲ與フルモ可ナル次第ニテ免モ角モ問題ノ大袈裟

在歐米各大使、蘭ニ轉電セリ

附言シ置キタリ

尙同局長ハ前顯譯文入手方希望セルニ依リ右ハ本官自身覺エ迄ニ翻譯セルモノナルカ其ノ諒解ノ下ニ同局長自身ノ御含迄ニ殘シ置クヘシトテ手交シ置キタリ

在歐米各大使、蘭ニ轉電セリ

件

615 昭和8年9月3日

在仏國沢田臨時代理大使より
内田外務大臣宛(電報)

仏國の新南群島領有問題に關し大袈裟にしたく

本側ニ於テハ佛側ノ領有其ノモノニ異議アル次第ニテ「アシュアラソス」問題ニアラサルモ何レ佛國政府ノ回答ヲ俟ツテ更ニ意見ヲ交換シ度シト答へ置キタリ
英、米、蘭ヘ轉電セリ

616 昭和8年9月3日

在米国出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

仏國の新南群島領有に対する日本の抗議は太
平洋の霸權獲得にありとの米紙社説について

ワシントン 9月3日後発

本 省 9月4日前着

第六八八號

二日華府「ヘラルド」、紐育「アメリカン」等當方面「ハースト」新聞ハ社説欄ニ於テ『何故ニ日本ハ布哇及比律賓ヲ取ラントスルヤ』トノ見出ノ下ニ例ニ依リ「センセーショナル」ナル筆法ヲ以テ左ノ趣旨ヲ述ヘ居レリ
日本ハ最近佛國ノ比律賓群島ニ近キ七礁島ヲ占領セルニ對シ抗議ヲ爲セルカ蓋シ其ノ目的ハ此ノ際佛國ト悶著ヲ起シ之ヲ切掛ニ委任統治諸島ニ對シ佛國ノ支持ヲ贏チ得ントス

617 昭和8年10月24日

在サイゴン伊藤(憲三)領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

ルモノナラン元來委任諸島ハ主タル同盟及聯合國ノ共有ニ屬シ從テ米國ハ諸島ノ主權ニ分前ヲ有スルモノナルカ日本ハ之等諸島ヲ併呑シ之ニ武備ヲ施シ比律賓及布哇兩群島間ニ楔ヲ打込マントシ之力爲委任諸島ニ對シ排他的主權ヲ主張セントス日本ノ比島領有ヲ希望スル理由ハ種々アルモ要スルニ支那海ヲ完全ニ支配シ如何ナル強國ト雖モ單獨ニテハ破り得サル牢固タル地歩ヲ亞細亞大陸ニ築カントスル事及日支兩國ニ於テ得ル事ヲ得サル優良ナル鐵礦ヲ得ントスル事之ナリ然ルニ米國議會ハ政馬、米大陸及布哇ニ於ケル砂糖工業ノ利益ヲ代表スル連中ニ動力サレ事實上比島ノ主權ヲ賣却セルニ等シキ行爲ヲ爲シ日本ノ比島領有ヲ便ナラシメ又米國ハ日本ノ布哇植民ヲ援助シ日本ニ依リテ利益ヲ收メントシ居ル布哇砂糖業者ノ跳梁ヲ容認シ事實上日本ノ布哇併合ヲ助ケ居ルハ何事ソ將來日本ニシテ比律賓及亞細亞大陸ニ於テ霸者タル可ク日米戰爭發生ノ場合モ米國ニ勝味無キニ至ラン

サイゴン植民地參事會が新南群島のコーチン
ナバリア州編入を承認決議について

第二一號

目下開會中ノ當地植民地參事會 Conseil Colonial ハ廿三日ノ會議ニ於テ突如 Spratly 島初メ新南諸島ヲ交跡^(桂)支那 Baria 州ニ附屬セシムル事ヲ可決承認セリ右ハ單ニ行政上ノ形式ニ過キシシテ直ニ行政官ヲ派遣スルモノニ非サル由佛、河内ヘ轉電セリ

618 昭和8年11月16日

在仏國沢田臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

サイゴン植民地參事會の新南群島編入決議に關
し仮国外務省政務通商局長との会談について

パリ 11月16日後発

本 省 11月17日前着

十 雜 件
貴電第二五七號ニ關シ
第五三一號

危險ヲ防止セントスル目的ハ如何ニシテ達セラル可キヤト言ヒタルヲ以テ本官ハスル「デタイユ」ノ問題ハ自ラ話合付ク可シ兎モ角根本問題ニ付兩國間ニ「ディフィキユルテ、セリユウズ」ノ起ラサルコトヲ念トシテ自分ノ思付タル處ヲ申上ケタル次第ナリト述ヘタルニ「バ」氏ハ貴官折角ノ御意見ナレハ之ヲ「ノート」シテ研究スルコトトス可キ旨ヲ答ヘタリ

619 昭和8年12月9日 在仏国沢田臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

新南群島領有宣言の取消し要請に対し仏国外

務省極東部長が仲裁裁判に言及について

第五八三號
本省 12月10日後着
パリ 12月9日後発

今月二日發行ノ鑛業雑誌 Usine ハ曰下佛國當局ハ本年占有ヲ宣言シタル南支那海礁島中ニ石油貯藏所ヲ建設方考究中ナルカ該島嶼ハ重要ナル海軍根據地タリ得ルモノナリトノ簡單ナル記事ヲ掲ケタルカ七日ノ「ユマニテ」ハ右記事

シタル所ナルニ鑑ミ又佛國政府ノ立場ハ法理上根據充分ナリト信スルカ故ニ今日該宣言ヲ取消スカ如キハ到底問題トナラス之ニ反シ日本側ニ於テハ燐鑛會社ハ損失ニ損失ヲ重ネタル結果作業設備ヲ放棄シテ朽ルニ委セ其ノ後何等復歸ノ意思現レ居ラス又日本政府トシテハ嘗テ河内領事ヨリ礁島ノ所屬問題ニ付問合アリタルノミニテ占有有意思ヲ表明セラレタルコトナク其ノ主張ハ法理上ノ根據乏シキヲ認ム唯右佛國宗主權ノ下ニ於テハ日本側ニ對シ如何ナル種類ノ保障ヲ與フルコトモ躊躇セサルヘキ旨ヲ答ヘタルニ付

本官ハ既ニ屢々述ヘタル如ク日本側ノ異議ヲ有スルハ佛國ノ先占其ノモノニアルカ故ニ保障ノ如キハ我方ニ問題トナラス佛側ニ於テ何處迄モ宗主權ヲ主張セラルニ於テハ勢ヒ正面衝突トナリ茲ニ御互ニ避ケン事ヲ努力シ來リタル「セリユーズ、ディフィキユールテ」ノ起ル事ヲ恐ルル次第ナルカ貴方ニ於テ屢々述ヘラレタル通り同島嶼ハ軍事的ニハ勿論經濟的ニモ價值少キモノナルニ鑑ミ強ヒテ之ニ對シテ宗主權ヲ主張スル事ナク本官私案ニ御賛成ヲ得ハ自分

件

ヲ引用シ佛國帝國主義ハ太平洋中ニ新ナル根據地ヲ設クトノ標題ノ下ニ海軍根據地ヲ造ルコトハ難シカルヘキモ水上飛行機ノ重要ナル發着地トスルコトハ可能ナルヘシ而シテ太平洋ニ於ケル紛爭ニ當リ佛國ハ日本側ニ加擔スルカ同方面ノ海外領土ニ鑑ミ日本側ヨリ充分ナル保障ヲ得ラレサルトキハ米國側ニ加擔セサルヲ得サルニ至ルヘク他方内亂絶エサル支那ノ現状ニ顧ミ支那ニ對シテ何等力ノ措置ヲ執ルヲ要スル場合ノ足場ヲ必要トスル點ニモ鑑ミ本件根據地ヲ考量シツツアルモノナリトノ論說ヲ掲ケタルヲ以テ九日外務省極東部長ヲ往訪シ右報道ノ眞偽ヲ尋ネタル處同部長ハ言下ニ之ヲ否定シ佛國政府ニ於テ該礁島ヲ軍事上ノ目的ニ使用スル意思無キコトハ自分ノ充分保障スル所ナルカ故ニ根據無キ新聞ノ報道ニ重キヲ置カレサランコトヲ希望スル旨述ヘタリ依テ本官ハ問題ヲ何日迄モ未決ノ儘ニ置クトキハ此ノ種新聞報道ノ爲徒ラニ輿論ヲ刺戟スルノミナル事態ヲ發生スヘキヲ以テ成ルヘク速ニ双方ニ満足ナル解決案ヲ見出スコト必要ナリト信スル處此ノ點ニ付過日政務通商局長迄本官思付ノ案ヲ述ヘ置キタルカ同案ヲ如何ニ考ヘラルヤヲ尋ネタルニ極東部長ハ佛國ノ先占ハ既ニ中外ニ宣言ハ

送セリ

620 昭和8年12月12日 在仏国沢田臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

十 雜 件
長ハ佛國側宗主權ニ付テハ仲裁裁判ノ如キモノノ結果其ノ

新南群島無主地化提案に関する仏国外務省政

務通商局長との会談について

パリ 12月12日後発
本省 12月13日後着

(¹) 往電第五八三號ニ關シ

十一日「バルジユトン」局長ノ求ニ應シテ往訪シタル處同
局長ハ往電第五三一號末段本件解決ニ關スル本官私案トシ
テ述ヘタル所ニ言及シ本官ノ眞意何レニ在リヤヲ尋ネタル

ヲ以テ本官ハ同問題ノ實際的ノ解決ヲ計ルコト兩國ノ親善
關係ニ鑑ミ必要ナルコトヲ痛感シ且又本問題ニ關シ相當沸
騰セル日本輿論ニモ鑑ミ兩國ヲ平等ノ地位ニ置キテ解決案
ヲ見出スコト肝要ナリトノ考量ヲ出發點トシ以テ若シ佛國
側ニ於テ同諸島ヲ無主地トシテ放置スルカ如キ意図ナルニ
於テハ日本側ニ於テモ其ノ主張ヲ水ニ流シテ之ニ同意スト
スルコトニスルモ亦一案ナリト考へ貴方ニ於テ此ノ趣旨ノ
下ニ考量ヲ加ヘラルニ於テハ本國政府ニ請訓セントスル
趣旨ナリシ旨ヲ説明シタル處同局長ハ宗主權設定ニ付テハ
繰返シ述ヘタル通り佛國政府ハ法理上ノ充分ナル根據ニ基

キ既ニ國際法上所要ノ手續ヲ完了シタルモノナルカ故ニ之
力取消ハ困難ナリ假ニ地位ヲ變ヘテ日本政府力同様ノ措置
ヲ執リタリトセハ日本政府ニ於テモ之力取消ハ肯セラレサ
ル所ナルヘシ從テ佛國トシテハ此ノ主權ノ下ニ日本側ニ對
シ私法上ノ保障ハ如何様ニモ之ヲ與フルコトヲ躊躇セサル
次第ナリトノ從來ノ言分ヲ繰返シタル本官ハ法理上ノ問題
トシテモ我燐鏡會社力帝國政府承認援助ノ下ニ數年ニ亘ツ
テ該諸島ノ開發ニ從事シタル事實ニ基キ帝國政府ニ對シ相
當期間内ニ

本件島嶼ノ領有ヲ宣言スルコトヲ得セシムル權原ヲ設定シ
タルモノト解シ居リ帝國政府ニ於テ放棄ノ意思ヲ表示セサ
ル限り他國ハ右權原ヲ尊重スル義務アリト解シ居ルモノナ
リト述ヘタルニ同局長ハ佛國側法律家ノ見解ニテハ個人ノ
經營力直ニ國際法上ノ占有トシテ他國ニ對抗シ得ルモノト
ハ言フ能ハス而シテ日本政府トシテハ嘗テ河内領事ヲシテ
右個人ノ經營ニ對シ佛側ノ保障ヲ求メラレタルコトニ徵ス
ルモ政府トシテ領有ノ意思アリタルモノトハ解スルコトヲ
得スト述ヘタルヲ以テ本官ハ河内領事ハ保障ヲ求メタリト
ハ初メテ聞ク所ニシテ我方ノ記録ニ依レハ同領事ハ本件諸
ノ所屬問題ヲ確メサセタルモノナリト答ヘタルニ同局長ハ
是等ハ法律上ノ問題ナルヲ以テ法律家ヲシテ更ニ研究セシ
ムヘシト述ヘタル上仲裁裁判ニ附スルコトモ一方方法ナルヘ
キ口吻ヲ洩ラシタルヲ以テ本官ハ過日ノ極東部長ニ對スル
ト同様ノ理由ニテ其ノ面白カラサルコト從テ兩國政府懇談
ノ裡ニ實際的ノ解決案ヲ見出スノ妥當ナルコトヲ述フルト
共ニ結局本日ノ御話ニ依レハ本官ノ私案ハ考量ノ基礎トス
ルコト不可能ナリトノ趣旨ナリヤト尋ねタル處「バ」氏ハ
貴官私案ニ對スル確答ト言フ譯ニハ非サルモ兔モ角其ノ儘
ニテハ考量困難ナリ何レ右法理上ノ點ノ研究ト共ニ解決ノ
方法モ更ニ考究シテ回答スヘキ旨ヲ答ヘタリ
佐藤大使ヘ暗送セリ

島ノ所屬問題ニ關シ印支政府側ニ問合セタル處同政府側ニ
於テハ其ノ所屬ヲ確知セサル旨ヲ答ヘタル趣ナリ右ハ即チ

帝國政府ニ於テ適當ノ時機到ラハ領有ヲ宣言スルノ意思ア
リシコトヲ證スルモノニシテ此ノ意思アリシカ故ニ當時其
ノ所屬問題ヲ確メサセタルモノナリト答ヘタルニ同局長ハ
是等ハ法律上ノ問題ナルヲ以テ法律家ヲシテ更ニ研究セシ
ムヘシト述ヘタル上仲裁裁判ニ附スルコトモ一方方法ナルヘ
キ口吻ヲ洩ラシタルヲ以テ本官ハ過日ノ極東部長ニ對スル
ト同様ノ理由ニテ其ノ面白カラサルコト從テ兩國政府懇談
ノ裡ニ實際的ノ解決案ヲ見出スノ妥當ナルコトヲ述フルト
共ニ結局本日ノ御話ニ依レハ本官ノ私案ハ考量ノ基礎トス
ルコト不可能ナリトノ趣旨ナリヤト尋ねタル處「バ」氏ハ
貴官私案ニ對スル確答ト言フ譯ニハ非サルモ兔モ角其ノ儘
ニテハ考量困難ナリ何レ右法理上ノ點ノ研究ト共ニ解決ノ
方法モ更ニ考究シテ回答スヘキ旨ヲ答ヘタリ
佐藤大使ヘ暗送セリ

仏国の新南群島領有問題などに關し仏国外務

大臣との会談について

パリ 12月23日後発
本省 12月24日前着

第六〇九號（極秘扱）

十二月廿一日着任ノ挨拶ノ爲「ポール、ボンクール」外相
ヲ訪問ス同外相ハ本使ノ來任ニ付七年來聯盟ニ於ケル「コ
ラボレーシヨン」ヲ想起シ祝意ヲ表スル旨述ヘタル後此ノ
機會ニ於テ是非本使ノ耳ニ入レ置キ度キ事アリト前提シ最
近佛國政府カ蘇聯邦トノ關係改善ニ努メ居ルハ夙ニ承知セ
ラル所ナルヘシト信スル處右ハ對獨關係上勢力ノ均衡ヲ
得ントスルニ外ナラス且全然歐洲問題ニ極限スル趣旨ニシ
テ決シテ極東ニ於ケル日本ノ立場ニ累ヲ及ホサシムルノ意
思毫モナク此ノ點ニ關シ何等日本側ニ危惧ヲ與ヘサル様充
分注意スヘキ旨出先大使ニ對シ繰返シ訓令ヲ與ヘ居ル次第
ニシテ當地ニ於ケル蘇聯邦トノ折衝ニ於テモ自分ヨリ常ニ
此ノ點ニ關シ蘇側ニ於テ誤解若ハ誤リタル希望ヲ抱カサル
様念ヲ押シ居レリト繰返シ佛國政府ノ態度ヲ説明シ日本政
府ニ於テ何等誤解ナキ様致度シトノ希望ヲ申述ヘタリ

右ニ對シ本使ハ佛國政府ニ於テ其ノ蘇聯邦トノ關係改善ニ依リ間接ニモ日本ニ壓迫ヲ加ヘントスル意思ナカルヘキハ本使個人トシテ充分承知シ居リ一點ノ疑惑ヲ抱キタルコトナキモ責任アル外務大臣ノロヨリ右事態ニ關シ充分ノ説明及「アシュアランス」ヲ與ヘラレタルコトハ本使ニ於テ頗ル重要視スル次第ニシテ日本政府ニ於テモ大イニ欣幸トスル所ナルヘシト思考スル旨答へ置キタリ

次テ同外相ハ從來日佛間ニハ國交上別段懸念スヘキ點ナク佛國政府ニ於テモ安心シ居リタル處最近ニ至リ思ヒ掛ケナク南支那海諸島ノ問題突發シ自分トシテハ頗ル遺憾ニ感シ居レリ元來同島ノ占有ハ一九三一年佛國海軍ノ申出ニ依リ單純ナル航海ノ安全保障上必要ナル設備ヲ爲ス目的ヲ以テ佛國政府ニ於テ之ヲ爲スコトニ決定シ爾來佛國海軍ニ於テハ其ノ目的ヲ以テ行動シ來レルモノナル處突然本年五月頃ニ至リ日本政府トノ間ニ紛議ヲ生シタル次第ニシテ日佛國交上一抹ノ暗影ヲ投スルニ至レルコト返ス返スモ遺憾トセ

(欄外記入)
サルヲ得ス佛國政府トシテハ法理上何等ノ支障ナシトシテ

佛國政府ニ於テ之ヲ爲スコトニ決定シ爾來佛國海軍ニ於テハ其ノ目的ヲ以テ行動シ來レルモノナル處突然本年五月頃ニ至リ日本政府トノ間ニ紛議ヲ生シタル次第ニシテ日佛國交上一抹ノ暗影ヲ投スルニ至レルコト返ス返スモ遺憾トセ

占有ヲ實行シタルモノナルモ萬一其ノ法的根據ニ異議アラハ喜テ本問題ヲ國際司法裁判所ノ審理ニ附スルニ躊躇セサルヘク純然タル法律問題トシテ國際裁判所ノ判決ニ委スルヲ以テ本問題ノ最合理的ナル解決方法ナリト思考スル旨ヲ述ヘ頗ル關心ノ色ヲ示セリ本使ハ之ニ對シ本問題ニ關スル日佛兩國間從來交渉ノ經緯ハ之ヲ承知シ居リタルモ實ハ未タ詳細研究ノ機會ヲ有セサリシニ付其ノ内篤ト研究ノ上更ニ御協議致スヘキモ日本政府トシテモ本件ハ一部輿論ノ興奮ヲ來シタルコトニモアリ簡單ニ解決スルコト不可能ナル事情アルヤニ思料セラルト答ヘタル處兎ニ角貴大使ノ研究ヲ待チ「レジエ」ト充分意見交換ヲ試ミラル様致度シト述ヘタリ在歐米各大使ヘ轉電セリ

(欄外記入)
本件ハ極東ニ於ケル日本ノ地位ニ關係スル問題ニシテ當分譲歩セサルコト可然

3 南米移民関係

622 昭和8年4月11日 在ブラジル林大使より
内田外務大臣宛(電報)

日本軍部がブラジル行移民を滿洲に振向けと
の反日的内容のU.P.電について

別電 四月十一日発在ブラジル林大使より内田外務
大臣宛第四七号

右記事内容

リオ・デ・ジャネイロ 4月11日後発

本 省 4月11日後着

第一四六號
(四六九)

當地新聞ハ大要別電ノ如キ東京發U.P.電報ヲ特別活字ヲ用ヒテ掲載シタルカスル通信ハ伯國人ニ面白カラサル印象ヲ與ヘ我レニ不利ナル結果ヲ齎ス惧アリテ注意ヲ要スルモント思考セラルルニ付御参考迄電報ス

聖市へ暗送セリ

十 雜 件
(別電)

第四九號

623 昭和8年4月11日 在ブラジル林大使より
内田外務大臣宛(電報)

ブラジル移民の送出と軍部とを関連させるよ

うな言動は慎むよう稟請について

リオ・デ・ジャネイロ 4月11日後発

本 省 4月12日後着